

令和6年飛驒市長選挙 立候補者アンケート

都竹 淳也 氏 アンケートのご回答

1) NPOへの期待について(300字以内)

現代社会では社会的課題が多様化する中で、地域の課題解決のために様々な市民活動団体(以下「NPO等」という。)が活動しています。NPO等について、飛驒市のより良いまちづくりのために、期待することはありますか。

はい ・ いいえ ・ その他

地域課題の解決は、行政のみでできるものではなく、実際に市民の方々が取り組まれている活動も多くあります。こうした市民主体のまちづくり活動はどんな活動であっても歓迎すべきものであり、大いに連携していきたいと考えています。特に、飛驒市は、全国の自治体の20～30年先に行く「人口減少先進地」であり、あらゆる分野で人手が足りなくなる中で、特に公共交通、介護、保育といった公共サービスを官民連携して維持していくことが喫緊の課題となっています。このため、市民、行政の守備範囲を考えるとなく、思い思いの活動を自由に行っていただきたいと考えています。

2) NPOへの活動支援施策について(300字以内)

飛驒市では「飛驒市まちの元気応援事業助成金」や「飛驒市まちづくり拠点node」を設置するなど、NPO等の支援施策が行われています。NPO等の活動をより推進していくために、団体の支援や活動費の補助、その他に活動支援施策は必要だと考えますか。不要な場合はその理由、必要な場合はお考えの施策がありましたら、具体的にお答えください。

はい ・ いいえ ・ その他

NPO等の活動に対する支援は必要と考えています。当市の例を挙げれば、「飛驒市まちの元気応援事業」および「飛驒市やさしいまちづくり応援事業」等があり、前者は、市民等が主体となってまちを元気にするような地域づくり活動を行う団体を対象とした支援策、後者は、市民自ら地域や生活の課題などについて考え、地域福祉の推進のための課題解決の活動を行う団体を対象とした支援策となっています。公益的サービスは市だけが提供するものではなく、NPOをはじめ市民の皆さんのより細やかなサービスや活動が不可欠であり、市としても可能な限り支援していきたいと考えています。

3) NPOとの協働関係の構築について(300字以内)

飛騨市では、「飛騨市総合政策指針(令和2~6年度)第3章 目指す将来像 2. 将来像実現のための基本姿勢」において、「対話と協働」について書かれています。飛騨市のまちづくりの為に、飛騨市とNPO等が協働関係を築き、NPO等との協働関係の構築・発展を進めていく必要があると考えますか。不要な場合はその理由、必要な場合は協働関係の構築やその関係を有効に運用する為にお考えの施策等ありましたら、お答えください。

はい

いいえ

その他

人口減少が進む中で、飛騨市の数年後は様々な制約が生じてきます。学校部活動の地域移行、市有施設の更新や統廃合の検討、公共交通・介護・保育といった生活に不可欠な公共サービスのための人材確保、IT活用による業務効率化とアウトソーシングの推進、これらに要する財源の確保など、課題は山積しています。これらは、前述のとおり行政のみでは解消し得ず、民間の方々のご活躍、とりわけ公共的役割を担うNPO等の方々との連携は必須です。少人数・小規模であっても、誰もが楽しく暮らせるまちをつくるため、仕事や生活の面において人口減少に合わせた新たな地域の仕組みづくりが必要であり、そのうえでNPO等と行政の協働は不可欠と考えます。

ご協力ありがとうございました。